1 吉岡町の概要

（1）位置・地勢

吉岡町は県のほぼ中央に位置し、榛名山の南東の山麓と利根川地域に展開しており、面積 20.46 平方キロの都市近郊農村です。県都前橋市や高崎市など大規模都市に近接しています。

本町の西半分は榛名山の裾野の一部で、標高 200 ～ 900 メートルの傾斜地であり、東半分は、標高 100 ～200 メートルの洪積層からなる洪積台地が、山麓から東流する中小河川によって開析されています。

町内には、関越自動車道の駒寄スマートインターチェンジがあり、道路交通の利便性も高く、周辺開発も進み、活力にあふれた町です。

（2）歴史・沿革

吉岡町は古墳の宝庫であり、昭和初期には町全体で 420 基を超える古墳があったとも言われており、古代より多くの人が住んでいたことがわかっています。天皇陵と同じ八角墳の三津屋古墳は、全国的にも珍しく県指定史跡となっています。

中世の本町近辺は、桃井氏が治め、桃井城跡や透かし彫りが見事な桃井館の欄間などが、その名残を今に伝えます。

近世には、三国街道や佐渡街道、伊香保街道など街道筋の宿場町として栄えました。佐渡街道の大久保宿は、北国大名や佐渡奉行、商人たちが行き交い、江戸期には大変にぎわいました。道しるべや養蚕農家群に当時の面影を見ることができます。

伊香保街道の宿場だった野田宿は、坂東三十三観音札所巡りの順路、伊香保への湯治客の道として多くの旅人が往来していました。

昭和 30 年に明治、駒寄両村が合併し、 2 つの村を結ぶ河川名にちなみ吉岡村と命名し、昭和 40 年代には上水道の給水が開始され、道路も舗装されるなど今の町の礎が築かれました。昭和 50 年代には吉岡村全域が都市計画区域に指定され、昭和 60 年に村制施行 30 周年を迎えるとともに関越自動車道が全線開通しました。

これまで多くの先人が町の礎を築き上げ、平成 3 年に町制へ施行された吉岡町は、榛名東麓の豊かな自然と歴史や伝統と調和して、交通網の整備や大型商業施設の出店、住宅地の開発など暮らしやすい都市基盤の整備が進んだ魅力ある町へと変貌を遂げてきました。